

景観への配慮及び環境エコ対策に関して

(1) 景観への配慮について

施設の建設にあたり、景観への配慮の考え方を以下にまとめました。

対応策 1 周囲から見えにくい施設

- ・建物の地盤高さは、周囲より低く計画されるため、ゆくのき学園等からは、見えにくい配置となります。
- ・敷地周囲等の既存樹木を極力残し、建物を遮るようにします。
- ・存置樹木が緩衝緑地となり、騒音・振動の低減効果が見込まれます。

対応策 2 自然・景観・交通等の周辺環境に調和した施設計画

- ・建物の外装材や色彩は、周辺環境との調和に配慮した計画とします。
- ・計画地に緑地帯を配置し、周辺緑地と一体的な景観を形成し、地域環境に調和した施設とします。



参考写真：周辺緑地と一体的な景観を形成した資源化施設

出典：多摩市立資源化センター（エコプラザ多摩）

(2) 環境エコ対策について

環境エコ対策に関して、2014年度に開催されたワークショップでいただいたご要望を抜粋しました。また、そのご要望に対する町田市の対応策をまとめました。

出典：相原地区資源ごみ処理施設連絡会(第6回) 参考資料2-2アクションプランまとめ

2. 【施設】環境エコ対策
2-1 太陽光発電・風力発電の利用（施設） （理由）循環型社会に寄与する施設、地球にやさしい施設とするため。
2-2 雨水有効利用（施設） （理由）循環型社会に寄与する施設、地球にやさしい施設とするため。
2-3 エコ収集車の導入（収集車） （理由）燃料削減、排ガス中の汚染物質低減効果が期待できるほか、ハイブリッド型ごみ収集車はエンジンを停止させた状態で塵芥装置を駆動させることができるため、ごみ回収時の作業音(圧縮時のモーター作動音)が低減されるから。
○アクションプランにおいて検討された対応策 ⇒ 2-1 太陽光発電・風力発電の利用（施設） ・太陽光・風力発電式街灯の導入 ・太陽光発電パネルの設置 ⇒ 2-2 雨水有効利用（施設） ・雨水貯留→植栽への散水、洗車に活用など ⇒ 2-3 エコ収集車の導入（収集車） ・エコ収集車の導入
◎町田市の対応策 ⇒ 2-1 ●太陽光パネルの設置（資源の有効利用） ・太陽光発電による再生可能エネルギーを活用します。 ⇒ 2-2 ●雨水の再利用（資源の有効利用） ・屋上等に降った雨水の貯留槽を設け、水洗トイレ、植栽用散水、洗車用水等への利用を検討します。 ⇒ 2-3 ●低公害収集車両の導入に向けた調整 ・天然ガス収集車両、ハイブリッド収集車両の導入推進を検討します。